

先進国はこれからも経済成長できるのか。次なる成長のフロンティアについて、都市経済学の権威に聞いた。

「クリエイティブ・クラス」が経済成長の原動力になる

都市経済学者
リチャード・フロリダ



(プロフィール)

1957年生まれ。米コロンビア大学で都市学の博士号を取得。今までにカーネギーメロン大学やジョージ・メイソン大学で教授を務め、今はトロント大学とニューヨーク大学の教授を務める。英誌ザ・エコノミストは、「都市学で世界をけん引している」と評価した。著書は『新クリエイティブ資本論』（ダイヤモンド社）など多数。

INTERVIEW

これからの経済の原動力は、人間の知識と能力に裏付けられた「創造性」です。

経済成長は、工場を建て機械を増やすといった「設備投資」や、「人口増」、新たなビジネスや産業を生み出す「イノベーション」などによってもたらされます。中でも、蒸気機関などの発明が、産業革命のきっかけになるなど、いつの時代も、「創造性」によるイノベーションが発展をけん引してきました。

今、私たちの経済は、農業経済、工業経済、サービス経済を経て、情報・知識を中心とする経済へと移行しつつあります。「創造性」の開発は、「設備投資」以上に重要になるのです。

私たちはアイデアを「財」として扱うことに慣れていませんが、これからは、技術、産業、富など、経済成長をリードするものすべてが創造的なアイデアから生まれます。創造性は無限の資源なのです。

ここ数年で起きた先進国の経

済低迷は、「創造性」の開発に注力することの重要性を再認識させてくれました。

私は、これからの経済成長を主導する人たちを「クリエイティブ・クラス」と呼んでいます。彼らは、科学、医療、工学、建設、デザイン、教育、芸術、音楽、メディア、芸能、金融、マネージメントなど、あらゆる職業で創造的な仕事をする人たちです。

全ての人が持つ

「創造性」を引き出せ

イノベーションと経済成長を引き寄せるためには、全ての人の「創造性」を引き出す必要があります。人々の才能や自由な発想を押しつづす教育をしていないかを問い直し、新たな教育・スキル開発プログラムを生み出すのです。これが、私たちの世代の最大のチャレンジです。私は、全ての人間が創造性をもっていると感じています。

私の調査では、アメリカにおける「クリエイティブ・クラス」

Technology (技術)

Talent (才能)

Tolerance (寛容性)



は労働人口の3分の1でしたが、彼らが生み出す富は、国の全収入の3分の2を占めています。

しかし、「クリエイティブ・クラス」の台頭が、ピケティが批判するような「格差拡大」につながると思いません。低賃金

の人々を救済するのは、社会保障ではなく、彼らが元来持っている「創造性」を引き出し、成功する機会をつくることです。

創造性を生む「3つのT」

創造的な人材が生まれる条件として、私は「経済成長の3つのT」を提唱しています。Technology (技術) (テックノロジー)、Talent (才能) (タレント)、Tolerance (寛容性) (トレランス) です。

Technology (技術) —— 「クリエイティブ・クラス」を引き寄せたい国や都市には、大学や研究機関などが常に新たな技術を生み、企業に還元できる環境が必要です。

Talent (才能) —— 国や都市が成長するには、「創造性」の高い人を、どれだけ数多く集められるかを考える必要があります。「創造性」がある人々が、「そこで働きたい」と思うような場所であればいいません。

Tolerance (寛容性) —— 「創造性」を向上させるには、多くの価値観を受け入れる器が必要で

す。新たなアイデアは、さまざまなタイプの人から生まれます。

たとえそれが、多数派ではない宗教や人種の移民などであっても、彼らが持ってくる新しいアイデアを受け入れる必要があるのです。そうした人々が、気兼ねなく起業できる環境づくりも必要です。

日本の経済も「創造性」で開花する

日本の経済成長も、新しい世代の創造性を引き出すことによってもたらされます。

「クリエイティブ・クラス」の数や、彼らの「創造性」という視点でランキングすれば、日本は世界で45位になります。

でも私は日本の成長に楽観的です。大事なことは過去の延長線上で経済を考えるのではなく、未来を見据えることです。

日本がこれからも、世界経済のリーダーであり続けるためには、人の創造性を開発する努力が求められます。

(談)